

夢アイデア企画書

アイデア

読書活動お進め隊の設置奨励

背景

現代人は活字を読む機会が極端に少なくなっている。ありていに言えば活字とは本や雑誌、新聞などだ。特に子供や若い世代ではスマホ情報に偏り過ぎ量の減少が著しい。各世代が活字とスマホの双方情報をバランスよく共有しながら自らの成長、社会の成長を遂げるのが未来への最適と考える。

方法

対処への方向性として、読書グループ結成を促し、本の供給を増やし接する機会を増やす事が考えられる。これには既存図書館との連携は欠かせない。移動図書館もありだが随所に小規模図書館を常備し効果の拡大を図りたい。

具体案として、家庭文庫、地域文庫、職場文庫の創設と充実から始めたい。さらにはリユース文庫、地域作家文庫の創設と充実が必要である。

まず家庭文庫。読書グループの結成とセットなのが望ましい。複数者が図書館から本を借りる。借りている期間内に読了しグループ内で回し読みする。

次に地域文庫。町内会、自治会内単位に各会館や公民館に図書コーナーを設ける手法である。もっと身近にということであれば団地内が考えられる。地元有志からスペースを供給してもらい拠点とする。本の持ち込み、貸し借り自由とする。

さらに職場文庫。商店街や企業単位のほか共同ビル単位での設置が考えられる。共有コーナーに居場所カフェなどを設けて自由な活用を演出できればなおよい。さらには毎月あるいは毎週の一冊推薦活動などを通じて存在に光を当てることも取り入れたい。

加えて以上提案の文庫の活性化に向け、独自にあるいは並行してリユース手法の活用とコーナーの設置や、地元出身社の出版本、自費作成本などのコーナーを設けて更なる活性化を促進する手法がある。

効果

各世代に渡り活字への接近度と活用機会が高まり、バランスある社会の発展が期待できる。

各文庫を通し人の交流が促進され地域活性化につながる。

活字の力が信じられるようになるとともに、新たな価値観との出会い、共有などが図られ、静かに進行中といわれる子どもの頃からの知育格差是正にもつながる。

#